

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071400693		
法人名	医療法人おがた整形外科医院		
事業所名	高齢者在宅複合施設サザン		
所在地	福岡県福岡市早良区次郎丸1丁目29番40号		
自己評価作成日	平成27年12月17日	評価結果確定日	平成28年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaikokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成27年12月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

開設母体である医療法人が地域に根ざして37年、当施設が開設14年を経過し、この地域に根差し、この地域になくてはならない存在になっています。「笑顔の為に何でもする」という理事長の思いを共有するスタッフが、献身的に利用者と触れ合っています。地域の健康教室開催、地域住民が参加できる納涼祭の開催、町内夏祭りへの出店参加、灯明祭りなど、自治体校区の行事への入居者、スタッフの参加等、地域住民として地域を盛り上げていく。5ユニット(45人)あることで、閉鎖的な環境にならず、常に前を見据えたケアをユニット毎が相互に、競い、高め合い、助け合いながら運営している。状態のかけ離れた利用者をつのユニットで一元的にケアするのではなく、時間の経過と共に変化する、認知症の進行度合い、身体状況の変化に合わせて、ユニット間の移動を可能としている為、利用者の残存能力、機能回復、生きがい向上が適切に行われるようなケアを行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「高齢者在宅複合施設サザン」は、医療法人を母体とする5ユニットグループホームである。1Fには大型デイサービスがあり、4階建ての2～4Fに各ユニットが位置する。地域の方が安価に、安心して暮らせるようにとの要望に応える形で開設され、理念を元に、親切、喜びの奉仕の精神をもったサービスを心がけている。医療に出来ること、福祉に出来ることそれぞれの特徴を生かしながら、系列事業所とも連携をとっており、総合的で一体的なベストミックスのサービスを提供する。入居者も元々近隣に住まわれていた方も多く、病院を中心としたコミュニティが、施設に移っても継続され馴染みのある環境を継続した暮らしが実現されている。地域との関係も深く、入居希望も多いため、空きが続くこともほとんどなく、安定した運営もなされる。病院も含めて、地域で3代にわたる家族との関係も生まれ、今後も地域を支えた発展が大いに期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの玄関に事業所の理念を掲示し、毎日確認することで実践につなげている。	開設時に理事長を中心にして作られた、サザングループとしての介護理念が共通しており、正面玄関、各ユニットに掲示されている。毎年全体カンファレンスで、直接代表から伝えられるほか、入職時のオリエンテーションでも時間をかけて話される。日頃も理念を振り返った話し合いがなされ、時には職員に理念を唱和してもらうことで、理念に基づいたケアを実践している。	理念をもとに、各ユニットごとの目標が立てられ、伝達されているが、事務室や目に付くところでの掲示や明記も行うことで、さらに意識をもった目標達成が目指されることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域とのつながりを持つことが出来るようにしている。今年の灯明祭りでは、地域のリーダーとして作品を完成し、地域の住民と共に祭りを盛り上げた。自治会長より、地域の独居老人の状況の報告を受けたり、施設と地域が相互に情報交換を行っている。	地域行事運営には事業所も主体的に関わっており、各行事の開催時には運営協力の依頼も受けて協賛や職員による運営支援などを毎回行って地域からも頼られている。行事には入居者も行く方は一緒に参加し、事業所の夏祭りは大々的で今では地域行事に並ぶほどの規模である。今年度からは交流室も地域に開放し、健康教室や講演なども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学生や高校生の職場体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の日常生活や外部評価の報告、夏祭りの行事の打ち合わせ等を行っている。自治会長からの要望にて、夏祭りのチケット販売の受付を移動したり、ステージに日よけのネットを設置したりした。	2ヶ月ごとに開催し、自治・町内会長、地域包括から参加され、家族は数名に案内し、参加もされている。事業報告のほか、地域情報をもらったり、地域行事に関しての話し合いの場ともなっている。議事録は1Fの受付カウンターに設置しており、誰でも閲覧できるようになっている。	会議は地域の方の参加も多く、活発な話し合いがなされているが、市職員への案内も行き、参加者の幅を広げてはどうだろうか。また、来られていない家族の掘り起こしのために、案内の拡大や家族にも興味をもたれるテーマ設定や家族会形式での開催検討がなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターに生活相談員が電話したり、直接、相談に行っている。	今年から地域包括ケアの取り組みも始まり、役所主導の「健康づくり教室」の実施主体ともなって、運営協力を市職員と一緒にしている。直近で実地指導もあったが、高評価を頂いており、何かあった際も電話や窓口訪問などで相談しやすい。季刊発行の「サザン便り」も渡して報告につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修や外部研修に参加し、理解している。ユニットの玄関も施錠せず、自由に入出りできる。	ユニット間、館内の移動も自由で、玄関の施錠も夜間のみである。1Fには受付フロントもあることで見守りもしやすく離設もない。徘徊癖のある方も回廊式の造りであるため落ち着いている。身体拘束もしない方針で、転倒の危険がある方もマットレス対応などで代替している。研修も内外で行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修や外部研修に参加し、理解している。		

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修やマニュアルで理解しており、実際に成年後見制度を利用されている方もいる。	入居後に事業所の支援によって、成年後見利用に至った方が3名いる。内部マニュアルが準備され、必要時には外部の専門機関とも協力して対応している。入職時のオリエンテーションや外部研修でも指導しており、1Fの受付にパンフレットや資料も準備されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員が対応し、丁寧に説明を行い、理解してもらっている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時に管理者や職員に意見や要望を伝えられ、すぐに対応し、運営に反映させている。	例外なく全家族が面会に来てもらえるよう、請求を現金払いにしており、毎月訪問をお願いしている。要望は対面で聞くことが多く、以前受診支援に関しての要望もあったが、納得いくまで説明も行った。来訪時に記録を見てもらって報告を行い、入居者の写真も渡している。毎年家族アンケートの実施もされている。	家族アンケートの結果を集計し、取り組み、結果報告まで行うことで、より発展的な活用を行ってはどうだろうか。掲示板やお便りの使用などで公開されていくことなどに期待したい。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談があり、職員の希望を聞き、運営に反映されている。ユニット毎の毎月の支給金も継続しており、利用者の喜ぶ品物の購入に充てられている。	毎月、ユニットリーダーごとのリーダー会と、ユニット会議が開かれ、出勤者は全員参加している。ユニットごとの予算が決められており、入居者のためという目的で備品購入やレク企画などに活用されている。年2回の面談は施設長、理事長、事務長のいずれかと話され、日ごろも自由に相談することができる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や努力に応じて、給与に反映されている。			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の職員が勤務しており、資格取得の休みや希望休も取れる環境である。	20～60歳代の職員がおり、希望者には定年延長の制度もある。全員が正社員雇用で男女比もバランスが取れている。新卒、高卒採用もあり、資格取得なども支援されている。職員も能力を生かし、イベント時にバンドを組んだりレクでの発表などもしている。5つのユニット間でいい意味での競争関係にあり、お互い刺激を与えながらサービス向上に努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内やグループホーム協議会での研修に参加している。	グループホーム協議会での人権研修に数名の参加を行い、半年ごとに各月の研修をまとめた伝達講習を参加者から行っている。今年度は差別や人同士の付き合いなどに関して学んだ。法令順守や倫理に関しての指導も毎年行っている。		

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や実績に応じて、グループホーム協議会の研修や認知症介護実務者研修等に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や文化際に参加することにより、他の施設の職員と交流することが出来、サービスの向上につながっている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談で本人の要望などに耳を傾け、信頼関係を築けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談で家族の要望などに耳を傾け、安心できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーや地域包括支援センターとの連携のもと、必要なサービスを利用できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事など、長年の経験から、利用者から教わることも多い。家事を手伝ってもらった後には、感謝の言葉を伝えることで良い関係を築けるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での状況を家族に伝え、家族との外出時の状況を職員に伝えてもらうことで、情報を共有し、共に本人を支えている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週、家族と外出したり、デイサービスを利用している夫が入居している妻に会いに来られている。毎月、遠方に住んでいる娘が来られ、外泊されたりされている方もいる。	近隣からの入居者も多く、元々の関係も継続してもらい、行きつけの美容室に行ったり、職場の同僚や知人、友人などの来訪もある。遠方から家族が来たり、一時帰宅や外泊をする方もおり、家族との外出支援もされている。関係が疎遠になった方には事業所から支援し、電話や手紙などを出してもらうこともある。	

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットのレクでコーヒーを飲みながら、利用者同士で会話を楽しむことが出来るように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や本人の希望により、退所された後に併設のデイサービスを利用されている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを使用し、本人の希望や意向を聞きとっている。本人からの聞き取りが困難な場合は、家族の面会時に聞き取りを行っている。	入居時と変化があった際にアセスメントを本人、家族と行い、ADLの変化は半年～随時の見直しもしている。主にケアマネと計画作成担当が受け持ち、以降の把握が難しい方には、職員が状況観察し、働きかけることで、関係を構築し、意向の読み取りにつなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを使用し、本人や家族から、聞きとりを行っている。日頃の会話の中からも、情報を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況や一日の過ごし方について、朝夕の申し送りで現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、本人、家族、管理者、計画作成担当者などが話し合い、現状に合った計画を作成している。必要があれば、計画の見直しを行っている。	主にユニットごとの計画作成担当者がかわり、プラン作成、モニタリングを行う。ケアプランの見直しは3か月で行い、その際の担当者会議に本人家族にも参加してもらって意見を聞いている。カードックスの中にプランと記録を綴じ込むことでプラン参照しながら記録できるようにして、職員間での共有を図っている。	モニタリングの際に、ケアプラン目標ごとの達成状況を詳細にみていくことで、より発展的な目標設定、プラン作成が行われていくことにも今後は期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践や気づきを介護記録に記入し、ユニットでのカンファレンスや担当者会議で話し合うことで計画の見直しやケアの実践に活かしている。		

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて急な受診にも対応している。本人が欲しいものがあれば、買い物の付き添いを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りに職員と参加し、金魚すくいや屋台を楽しまれた。参加している子供たちとの交流も図ることが出来た。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で入居前からのかかりつけ医を主治医とし、診察や薬の処方を受けることが出来る。家族付添での受診時は、本人の状況について、家族に伝え、Dr.から適切な指示を受けることが出来るようにしている。	あえて通院を基本とすることで外のコミュニティとのつながりを継続してもらい、急変時には往診対応をしている。提携外の受診や可能な際には家族支援してもらい、基本的には家族を中心に病院との情報共有をしている。看護師も2名在籍し、健康管理や相談体制もとられている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診時に利用者の状況を看護師に伝え、Dr.より、適切な指示や処方を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護添書を病院へ送り、本人の情報提供を行っている。計画作成担当者が病院へ面会へ行き、看護職と情報交換を行い、早期に退院できるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族にターミナルケアの説明を行い、重度化した時は、主治医の説明のもと、看護師、家族、施設職員の協力のもと、支援を行っている。	事業所の方針としては希望があれば最期まで支援する考えであり、今までに一人の方の看取りを家族の協力の下で行った。ターミナルケアに関する研修にも参加し、今後もその時々でそれぞれのかかりつけ医と相談しながら対応していく考えである。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の発生時の研修の実施やマニュアルを準備している。日常的に、看護師より、急変時等の対応について、説明を受けている。		

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練を年2回行い、運営推進会議で地域との協力について話し合いを行っている。	年2回のうち1回が消防署立ち合いで、夜間想定訓練は別途行っている。日中想定は併設デイサービスとも合同で訓練する。避難場所に関して、地域とも相談し、隣接する集会所が使えるように依頼している。地域の避難場所として事業所の提供も申し出ており、備蓄物も多めに備えている。地域防災訓練にも参加し、協力体制構築に取り組まれている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けを行っている。	接遇やマナーに関する研修を内外で年2回程度行うほか、職員忘年会をホテルで行うことでプロの接客を目で見て取り入れている。入浴や排泄時に関しても羞恥心に配慮して対応し、希望されれば同性介助による対応もしており、相手を尊重した対応を心掛け、丁寧な言葉かけに努めている。個人写真の利用も含めて個人情報の同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを自由に表現できるように声掛けを行ったり、職員が決めつけずに利用者を選択してもらおう機会を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、本人の希望により、戸外へ散歩にお連れしたり、買い物にお連れしたりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧の手伝いを行ったり、外出時には、季節に合った好みの服装が出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食材の盛り付けや、食後の洗った食器を布巾で拭いてもらったりしている。職員は食事が楽しくなるような会話の提供を行っている。	管理栄養士による栄養管理と調理指導が職員に対してなされ、各ユニットで調理をしており、入居者にも役割を持ってもらって出来ることをしてもらっている。陶器の皿を使って盛り付けなど見た目にも気を配っている。月1、2回は外食に行くこともあり、行事の際にはコース料理やバイキング形式でも提供している。おもちなども楽しめるように、詰まらないよう食材を工夫して、食べる楽しみの提供に努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しっかりと食事が出来るように、利用者に応じて、刻んだり、とろみをつけたりしている。自力で摂取できない方は介助を行っている。十分な水分を摂取できるように、食事以外にも提供したり、好みのジュースなどを提供したりしている。		

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが出来ない方は、職員が介助し、清潔保持が出来るようにしている。必要に応じて、歯科の往診を受けることも出来る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとにトイレ誘導を行い、少しでもパット等の使用を減らすことが出来るようにカンファレンスで話し合っている。	ユニットごとの排泄チェック表があり、自立した方を含めて全員分を管理している。チェック表を見ながら、失禁の多い方のトイレ誘導を増やしたり、日頃から臨機応変に対応している。パット汚染が減った方の枚数を減らしたり、負担軽減にもつながった。基本的にはトイレ誘導し、夜間もトイレを使ってもらい、過度に干渉もせず出来ることは自分でしてもらっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を定期的に購入し、朝食後に提供したりして、便秘の予防に努めている。散歩や運動を行い、適時、トイレ誘導を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて、毎日、入浴されている方もいる。本人の出来ない所を介助し、職員と会話を楽しみながら入浴している。	各ユニットの浴室のほかに、夕方以降は1Fデイの大浴場を使うことも出来る。ユニットは個浴で、毎回お湯も入れ替えており、季節の行事浴なども提供している。時間帯もそれぞれの希望に合わせて対応し、皮膚観察やコミュニケーションの場としても役立っている。拒まれる方も曜日や担当などを変えて無理強いせずに対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩やレクに参加してもらい、適度に体を動かすことで夜間の安眠につながっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの病院から薬の説明を受け、本人の能力に合わせて、服薬の支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物やカラオケ等の趣味活動が好きな方には、楽しめるように支援している。		

H27自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、スーパーまで、職員と買い物に行かれている。毎週、家族と外出され、自宅に戻られている方もいる。	毎月1, 2回の外出レクがあり、日曜日には併設デイの大型車を利用して季節の外出レクや、紅葉狩り、などにユニットごとに外出している。少人数でも近隣の公園への散歩など日常的にしており、車いすの方も同様に個別対応もしている。家族に依頼して連れ出してもらうこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の協力により、小額のお金を所持されている方もいて、買い物に行かれた時に使用されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話したり、手紙のやり取りを行えるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が心地よく過ごすことができるように、温度などを調節し、季節の花や置物を飾ることで季節感を感じてもらえるようにしている。	建物1Fの総合エントランスはホテルのように整備されており、グループホームは上階にある。各ユニットがエレベーターホールを中心に両側に位置し、中庭を中心に回廊式に部屋が配置され、各所に窓が面していて明るい。季節の絵画を飾るほか、毎月生け花を入居者ごとに作って居室やリビングを彩っている。各居室の近い位置にトイレも配置され、安全に利用することができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの利用者同士でソファに座って、会話をされたり、新聞や読書を楽しまれたりしている。一人で過ごすこともできるようにベンチを設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や馴染みのある物を持ち込み、心地よく過ごせるようにしている。	居室と廊下をつなぐ窓がステンドグラスになっており、高級感がある。洗面台、木製ベッド、タンス、テーブルが事業所によって備え付けられ、希望すれば介護ベッドの利用もできる。8畳強の広さがあるためソファなど持ち込んでもゆとりがあり、カーペット敷きにしてちゃぶ台を置く方もいる。夫婦での利用を考えられた居室もあり、入居者のニーズに対応している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、適所に手すりがあることで安全に自立した生活を送ることが出来るようになっている。必要に応じ介助を行っている。		